

# 地方都市の夜の繁華街活性化に向けた 取り組みに関する研究

169304C 浦橋誠

## 1. 研究の背景・目的

近年、夜間における経済活動（ナイトタイムエコノミー）が地域活性化のキーワードとなっており、観光庁<sup>1</sup>は、夜の時間を活用した消費の拡大が地方創生の切り札と位置付けている。ナイトタイムエコノミーはインバウンドの需要を満たすだけでなく、地方経済の活性化と住民のサードプレイスとしてコミュニケーションの場を生み出す。バーやスナックといった夜の繁華街を代表する店舗は、1960年代から始まった高度経済成長期に地方都市の中心市街地にも数多く出店し、各地で特色のある繁華街を形成した。しかし、バブル崩壊以降は小規模な店舗ほど経営が困難になった。そのため全国の地方都市における夜の繁華街は衰退し、今では店舗の老朽化や経営者の高齢化による事業継承、来訪者の高齢化などが深刻な課題となっている。

本研究では、地方都市のナイトタイムエコノミーの中心となる繁華街を対象に、活性化に向けたこれまでの取り組みを整理し、結果をもとに新たな取り組みを提案し実施する。また、その取り組みに対する来訪者の印象を調査し、取り組みの効果を分析する。2020年からは新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響も考慮する必要がある。これらを踏まえ、今後の繁華街の在り方についての考察を行う。

## 2. 対象地の概要と現状

### (1) 対象地の概要・歴史的変遷

本研究では宇都宮市の繁華街である泉町・本町をケーススタディとする。なお、対象地の歴史的変遷や来訪者の実態等を把握するにあたり、菅野<sup>2</sup>の先行研究を参考にした。対象地は宇都宮市の中心市街地に位置し、戦後、市庁舎の移転や高度経済成長期の影響を受け夜の繁華街として成長、まちの経済を支えた。しかし、バブル崩壊以降小規模な店舗は経営が困難になり来訪者は減少、空き店舗の増加により「暗い」「治安が悪い」といった印象が定着し現状は繁華街として衰退しつつある。

### (2) 新型コロナウイルス感染症流行による影響と調査

感染症流行の影響により2020年3月及び2021年1月に緊急事態宣言が発出され、飲食店等が営業の自粛・時短を余儀なくされた。夜間の営業を主とする店舗が多く

立ち並ぶ対象地が受けた影響は大きく、コロナ禍における現状を把握するため店舗の営業状態を1年間を通して計4回調査した。1度目の緊急事態宣言直後の調査（2020/4/30）において営業していた店舗は303店舗中18店舗（6%）であった。宣言が解除され感染拡大が落ち着き始めた際の調査（2020/8/27）では、303店舗中204店舗（67%）の営業を確認した。2度目の緊急事態宣言直後の調査（2021/1/15）では303店舗中6店舗（2%）が営業し、最初の調査よりも割合が低くなった。なお、「自粛」の判断基準は張り紙等で明示されている店舗であり、それ以外の店舗は「不明・閉店」としている（図-1）。

### (3) 通行量調査

対象地の賑わいを測るための定量的なデータは少なく、現状把握と継続的な研究・調査のための基礎的データとして通行量を計測した。計測箇所は対象地のメイン通りである「泉町通り」とし、計測時間は21:00~24:00の3時間、計6日計測した。平均の通行量は362人、性別平均では（78%）が男性であった。年齢別（青年・壮年・高齢者の3区分）平均では青年（18~34歳）が48%、壮年（35~64歳）が48%、高齢者（65歳）が4%であった（図-2）。また、平均通行量は平日、金曜日、土曜日の順に大きくなることが明らかになった。なお、今回の調査データについては、コロナ禍の影響による通行量の減少があることを十分留意する必要がある。

## 3. 取り組みの整理と提案

### (1) これまでの活性化に向けた取り組みの整理

対象地の活性化に向けた取り組みとして、宇都宮大学都市計画研究室とNPO法人宇都宮まちづくり推進機構が共同で「泉町活性化プロジェクト」を2018年に開始した。これまでに行われてきた取り組みを整理したものを表-1に示す。

### (2) 活性化に向けた取り組みの提案

これまでの活性化に向けた取り組みの中で、LED照明を用いた街路の演出が来訪者に、景観への印象変化や行動変容を促す効果があることが明らかになっている。コロナ禍において新しい生活様式を踏まえつつ、繁華街の賑わいを創出する手段として、低未利用地及びオープンスペースを利用した屋外飲食空間のイベント（酒類等の提供）を提案した。また、異分野融合の取り組みとして、

先端光工学の学生と共同し光演出（虹色 LED 照明の設置、プロジェクションマッピング）を用いた飲食空間デザインにより、他にはない独自の取り組みとした。

#### 4. 調査の実施と効果の分析

##### (1) 来訪者の景観に対する印象の変化

ライトアップが繁華街に対する印象にどのような変化を与えるかを分析するため、対象地への来訪者を対象にアンケート調査を行った。「明るさ・暖かさ・親近感・賑やかさ・落ち着き・静かさ」の6指標を5段階で評価してもらったところ、ライトアップ前後で6指標のうち「明るさ・暖かさ・賑やかさ」の3指標でポジティブな印象に変化するという結果が得られた（図-4）。

##### (2) 屋外飲食空間実施による定性的分析

夜間の屋外飲食空間を2020年12月中に計4日（実施時間18:00~24:00）実施し、延べ100人程度が興味を持ち訪れた。来訪者、企画者、店舗関係者の間にコミュニケーションが発生し、人通りが減少した対象地においても一定の賑わいを創出する効果が得られた。記念撮影をする様子や今後も続けて欲しいという意見が得られた一方で、時勢的にこのような取り組み自体に否定的な意見もあり、今後の継続には来訪者や関係者らに十分な理解を得られる形で行う必要があると考える。

#### 5. 終わりに

##### (1) 今後の繁華街の在り方について

今後の繁華街の在り方として、各主体の有機的な連携が重要であると考え。普段は地域住民、店舗関係者らが主体となり日常的な活性化に向けた取り組みを行い、大規模な取り組み時には様々な主体が協力し合うシステムの構築が必要である。

##### (2) まとめ・今後の展望

本研究では、宇都宮市の夜の繁華街である泉町・本町を対象に、これまでに行われてきた取り組みを整理し、新たな取り組みを提案・実施、その効果を分析した。また、得られた知見をもとに今後の繁華街の在り方についての考察を行った。本研究で行った調査によって、対象繁華街の状態を定量的に計測し、活性化の度合いを比較・分析するための基礎的なデータを収集することができ、今後の継続研究を行う上での筋道を立てた。

#### 参考文献

- 国土交通省観光庁観光資源課：ナイトタイムエコノミー 推進に向けたナレッジ集，2019年。
- 菅野健，大森宣暁：地方都市歓楽街の特性と情報提供，日交研シリーズ A-767，pp.15-43，2020年。

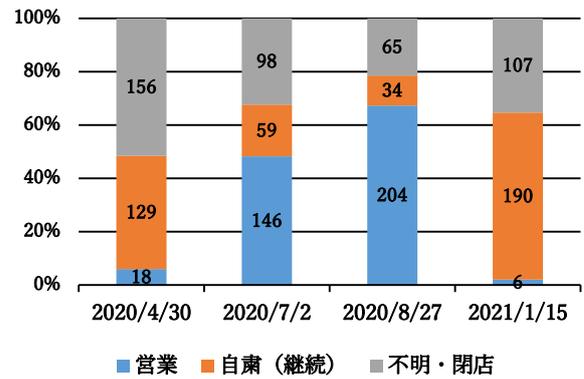


図-1 店舗の営業状態変化

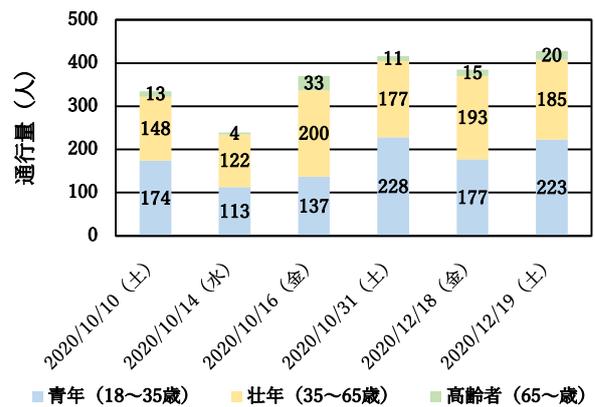


図-2 年齢別通行量

表-3 泉町活性化プロジェクトの取り組み

日付	内容		
2018年	6月	第1回泉町活性化PJ会議 店舗調査(H30年度)	意見交換,泉町・本町の問題点共有 泉町・本町内の店舗数の調査
	8月	第2回泉町活性化PJ会議	交通規制,通りの明るさ,情報発信について
	11月	第3回泉町活性化PJ会議	国内・海外の都市を参考にした意見交換
2019年	1月	第4回泉町活性化PJ会議	これまでの振り返り,HPの作成
	8月	第5回泉町活性化PJ会議	ライジングポラード,照明に関する検討
	9月	泉町ウェルカムライト実施	「泉町通り」計8台の照明を設置
2020年	2月	第6回泉町活性化PJ会議	イベント実施報告,HPについての協議
	5月	店舗調査(R2年度1回目)	店舗数調査,営業実態調査
	7月	店舗調査(R2年度2回目)	店舗数調査,営業実態調査
	8月	店舗調査(R2年度3回目)	店舗数調査,営業実態調査
	9月	第7回泉町活性化PJ会議	照明による景観向上の検討
	10月	レインボーライト設置点灯	通り及びビル壁面にLED照明の照射
	12月	屋外飲食空間実施 夜のスタンプラリー	オープンスペースを利用した賑わいの創出 泉町・本町への来訪者誘致イベント
2021年	1月	店舗調査(R3年度)	店舗数調査,営業実態調査

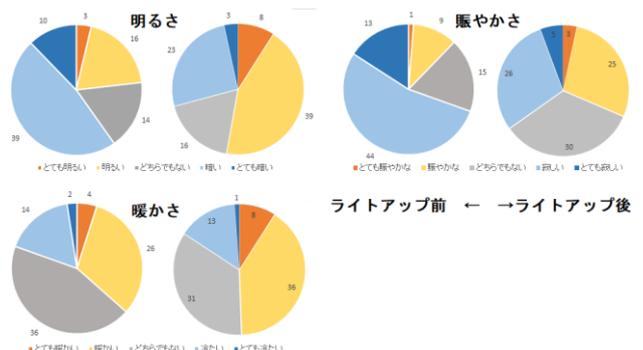


図-3 ライトアップ前後の印象変化